

式　　辞

今年も1年が終わろうとしています。皆さん一人一人にとって、どんな年でしたか。

今日は有名な話なので知っている人もいると思いますが、「木こりのジレンマ」という寓話についてお話しします。

ある木こりが一生懸命に木を切っているのに作業が進みません。見兼ねた人が「斧を研いだらどうですか」と声を掛けても、木こりは「忙しくてそんな時間はない」と答えます。しかし、本当に必要なのは、いったん手を止めて斧を研ぎ、切れ味を取り戻すことでした。

皆さんにとっての斧を研ぐとは、専門科目の原理を理解し、実習で基礎を固めること、資格取得やコンテストで自分の技術を確かめ、磨いていくことです。工業高校で学ぶ知識や技術は、将来の職業を切り拓くための刃です。研がれた刃ほど、皆さんの可能性を広げてくれます。

そして、もう一つ、この時期に絶対にしてほしい大切な斧研ぎがあります。それは自分を振り返ることです。この1年でできるようになったこと、課題として残ったことを自分で整理しましょう。そうすることで、自分のどこが強みで、どこを磨く必要があるのかが見えてきます。ただ前に進むだけでは、刃はどんどん鈍ってしまいます。立ち止まって見直す時間こそが、切れ味を取り戻すための大切な工程なのです。

明日から冬休みです。まずは2学期の疲れをしっかりと癒し、心と体を整えてください。そして、2025年を落ち着いて振り返りましょう。

3学期、皆さんがあなたがまた研ぎ澄ました斧を手に、専門分野への学びをさらに深め、進路へ向かって力強く歩み出すことを期待しまして、2学期終業式の式辞とします。

令和7年12月19日

愛媛県立東予高等学校長 檜垣 知美